

令和元年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300244		
法人名	社会福祉法人宝寿会		
事業所名	はなみずき石鳥谷		
所在地	028-3102 岩手県花巻市石鳥谷町上口1丁目3番地1		
自己評価作成日	令和元年7月4日	評価結果市町村受理日	令和1年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは同一法人が運営する養護老人ホーム、デイサービスに隣接しており両施設間の利用者と交流を行っています。又、養護老人ホームの看護師から定期的な健康管理、終末期の支援を受けております。さらに非常災害時に備え、母体施設と総合避難訓練を行うとともにホーム単独での避難訓練を行っています。又、昨年度からボランティアを受け入れ地域の方々との交流も増えてきました。利用者ひとりひとりの様子を観察し、その人らしい生活が出来る様に家族の協力を頂きながら協力して支援しております。また利用者の機能低下を予防するため毎日体操リハビリを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0372300244-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年7月26日

閑静な住宅地に囲まれた地域にあり、同一法人が運営する養護老人ホームに隣接している。法人の理念を基に、ホームの目標を「想いの尊重、あいさつ、笑顔、チームワーク」とし、職員はチームとして入居者のケアにあたっている。職員の異動や入退去はあったが、職員数も充足し、良いケアが提供出来ている。異動間もない職員には先輩が丁寧に助言して不安を軽減するなど、コミュニケーションは良好である。ホームの行事、法人の行事に参加したり、出かける入居者は減ってきているが、可能な範囲で参加を支援している。法人の内部研修は、勤務体制を考慮し全職員が参加できるように同じ内容で1週間行いうなど、参加しやすい環境づくりに取り組んでいる。秋の避難訓練は、初めて水害を想定(北上川氾濫想定)して行う予定であり、成果が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名： はなみずき石鳥谷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示・唱和は行われており、職員一同理念を共有し、実践につなげている。	法人理念「和と笑顔」を掲示・唱和するとともに、その具体化に向け「利用者の思いの尊重」「挨拶」「笑顔」「職員間、家族とのチームワーク」の4項目を事業所として掲げ、職員間で共通理解し日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通じての交流は、保育園・小学校と持っており、中学生・高校生とはインターンシップを通じて交流を持っている。また、ボランティアの方との交流を楽しみにしている。	法人広報誌にホームの記事もあり、笑顔の写真が掲載されている。散歩の途中に保育園の園児とフェンス越しにタッチをしたり、散歩の途中に地域の方から声をかけられることもある。保育所、小中学生、高校生やボランティアが事業所を訪れ、楽しみにしていた利用者やゲームやインターンシップを通じて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員主催のサロンでお話ししてほしいと言われているが、日程調整できずまだ実現していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、利用者の状況やヒヤリハットの報告をしてアドバイスを頂いている。ボランティアを紹介して頂いたこともある。	行政区長、民生委員、行政担当者、地域包括支援センター職員、家族を委員とし、ヒヤリハットの状況や入居者の様子等を報告し、委員から意見や助言を頂き、意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーにもなっていただき、情報交換をすることでサービスの向上につながっており協力関係が築けている。	行政の担当者が推進会議メンバーであり、避難訓練に参加しての意見や、助言をもらっている。生活保護受給者や成年後見制度を活用している方もおり、その都度、意見交換している。市担当者とは、窓口又は電話を活用して情報交換を行っており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が施設内研修に参加し、理解を深めている。	法人には接遇委員会と、月1回リスク委員会が、看護師の指導で行われている。日常は言葉による拘束に重点を置き職員間で注意をしている。ケアにゆとりができたことにより、入居者に寄り添う時間が増えてきている。	指針を作成し研修を行いながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。法人が主催するリスク委員会以外に、事業所独自の開催に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修に参加し、虐待について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修に参加し理解している。現在、成年後見制度を利用している方が1名おります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書等を読みながら疑問に思うことはないかと聞きながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお聞きしたことを「申し送り」に記入し職員間で共有するようにしている。また年1回家族交流会を開催し、直接意見を伺う機会を設けている。	面会時や家族交流会開催時に、家族から意見要望を伺い運営に反映させている。家庭の事情で通院介助が難しい、外に連れて行って欲しいなどの声がある。車椅子利用者の増加等により遠出が難しくなっていること等を説明し、理解を得ながら可能な範囲で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングで意見、提案など話し合いの場を設けている。	施設長が職員個人と面接をして、意見、要望を年1回聴き取っている。法人に対しては、各居室にエアコンを設置して欲しい等の要望が出ている。希望休を優先し勤務表を作成しており、職員間で協力し有給休暇をなるべく取れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務は、希望休を優先させている。また、法人として資格取得のための支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修への参加の機会は設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの同一ブロック内での交換研修は参加しても、受け入れても勉強になり相互のサービスの質の向上に役立っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始する前、また利用開始する段階でも要望を伺いそれを最優先に考えている。またお話を傾聴し、理解するよう努めている。そして必要なサービスを提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みの時、事前面談の時に困っていること等を伺っている。信頼関係が築かれるまで時間を必要とするがお話しを伺うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話しを伺う事で大切な事は何かを考え、理解するよう努めている。そして必要なサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬いながら、本人の得意な事を継続していただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に安心して生活できるように本人の生活状況をお知らせして協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切に思っている事を尊重し、関係が途切れないように支援している。知人・友人の面会を受け入れゆっくりお話しができるようにしたり、写真を飾ったりしている。	入居者が大切に思っていることは、家族であり、自分の生きてきた生活歴であることが多く、家族や親戚、友人との関係が途切れないよう支援に努めている。通院を利用し家族と出かけ外食を楽しんだり、親戚や友人が訪ねてくると、居室で楽しそうに話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクに出来るだけ参加して頂くことで自然と孤立せずに過ごしている。トラブルがあった時は職員が間に入り、うまく関り合えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には相談や支援を行い利用している時と変わらない関係性でいられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話しを傾聴することで希望・意向を把握し支援している。表情を観察できるだけ本人本位にできるように検討している。	入居者の意向の把握に努めているが、話すことが困難な場合は表情やしぐさから思いをくみ取り、職員間で共有している。筆談で意向を確認することもある。把握が困難な場合は、生活歴や家族からの情報を参考に、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話しを伺い把握に努めている。関わっていくことで徐々に把握できるようになることもあるのでお話しを傾聴することを継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人をよく観察し、現状の把握に努めている。職員間で申し送り等に記入し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当職員も行い、家族にもお話しを伺い担当者会議の時に情報を共有してケアにあたっている。	3か月ごとにモニタリングを居室担当が行い、計画作成担当と一緒にケアプランの見直しを行い、カンファレンスを経て看護師の意見や、家族の意向をケアプランに反映させている。状態に変化がある時には、随時見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいたこと等を小さい事でも記録に残し、職員間で共有し支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズを伺い職員間で話し合いを持ち、柔軟な支援を行えるようにしている。(例として母体施設の特浴を利用するなど)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティアを頂き楽しみをもてるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応で通院をお願いしている。適切な医療を受けられるように日々の様子、バイタル等をお知らせしている。	入居前からの、かかりつけ医を受診している。家族が同行して受診する際には、最近の様子やバイタルを書面で提供している。受診結果は、家族から口頭で報告を受けている。法人の看護師が週1回健康チェックに来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回健康相談日としてバイタルチェック等の健康管理をしてくれている。その他に、急変や気になることがある時には相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時は、日常の様子や体調をお知らせし家族とも連携を密にしている。また入院先に訪問し情報交換を行い、医療機関と連携できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に家族に説明し同意書をもっている。徐々に重度化されたようなときは、再度家族と話し合いを持っている。	重度化した場合や終末期の対応については、契約時に事業所として出来る範囲を説明し、同意を得ている。家族がホームでの看取りを希望している方もいるが、夜勤体制が1人であること、医師の協力が難しいことからホームでの対応は難しい現状にある。重度化した場合には、再度、家族と相談し対応している。指針を作成し看護師を講師に研修会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修に参加し、AEDの使い方を学んでいる。また緊急時用のマニュアルも作成されており、母体施設との連携も出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも参加して頂き、避難訓練を行い避難経路や職員の動きの確認を行っている。	市のハザードマップでは、水害危険地域である。養護老人ホームと合同で消防署や公民館長、運営協議会委員等約30人の協力をいただき、総合避難訓練を実施している。ホームでも独自に火災想定で3回程度訓練をしている。秋には初めて、北上川水害想定避難訓練が計画されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○〇さんと名前を呼び、温かい言葉を掛ける様に心掛けて対応している。また無理強いせずに臨機応変な対応をしている。	人生の先輩として敬い、寄り添い気持ちを損ねないよう温かい言葉で対応している。拒否がある時には時間をおいて、再度声をかけている。食事についても、食べたくない意思表示したときは様子を見ながら臨機応変に対応している。部屋でのポータブルトイレ利用時やオムツ介助時には、特に配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などを話して頂けるよう話しやすい環境・雰囲気であるように心掛けている。また自己決定できるように質問の仕方を工夫している。耳の遠い方には筆談をすることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせ、何を希望しているのか傾聴に努めている。レク等は希望が出ない時は職員が決め同意をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生会の時はおしゃれをして楽しんでいる。日常は、本人の希望に添えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備ができる方はいないが、下膳や食器拭き、テーブル拭き、おしぼりたたみを手伝って頂き一緒に行う事ができている。	利用者への対応を優先するため、食事は業者委託としている。利用者は、片付けやテーブル拭きを職員と一緒にしている。月1回の誕生会や雛祭り、敬老会等の行事食を楽しんでいる。下膳、茶わん拭きなどは自ら参加し職員と一緒にしている。職員は弁当持参である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の摂取状態を把握し、十分確保できるように支援している。一人一人に合わせ、ソフト食・きざみ食等に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや歯磨き、義歯洗浄等一人一人に合わせた声掛けや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る方は見守りを行っている。尿意便意がある方は、8名おりそれぞれに支援出来ている。	完全に排泄が自立出来ている方が3人、オムツ利用者が1人いるが、日中は出来るだけトイレ排泄を支援している。夜間には3人がポータブルトイレを使用している。失敗時にはさりげなく介助して気持ちの負担を軽くし、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、2日以上排便がない方には、飲み物を勧めたりしている。下剤を服用して頂くこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、同意の上で介助している。1日に2～3名の入浴を予定し、もし拒否があった時は翌日入浴できるよう支援している。	午後2時から3時半の間に、早番が担当し週2回の入浴を目途に1日2～3人を介助している。介護度の高い3人は特養の特浴を午前中に利用している。循環風呂のためいつでも対応可能である。異性介助を拒否する方や入浴を嫌がる方には、曜日を変えたり、「温まりに行きましようか」等と声かけを工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息できるような声掛け・見守りを行っている。また掛物を調整したり、お話を傾聴したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はそれぞれの薬についてわかるようにしている。薬の変更があった場合は、職員全員がわかるように紙に書いて貼ったり、申し送りに記入したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から今できること、好きな事を見つげながら張り合いや喜びのある生活を楽しんで頂ける様にしている。新聞や雑誌を自由に読める様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くへの外出は難しくなっているので、施設周辺の散歩が多くなっている。	車いす利用者が多くなり、外出の頻度は減っており、外に出なくても、体操を毎日行い、ホームの中を歩いたり、座って足踏みをしている。天気の良い日などには、施設周辺や保育園まで散歩に出かけたり、ベンチに腰掛けて日光浴をしている。郵便局やおやつ購入に職員と一緒に月1回出かけることを楽しみにしている利用者も1名いる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人では管理が難しい為、家族の希望で事務所で預かっている。希望する時は一緒に買い物に行ったり、代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年の正月に家族に年賀状を出し、好評だった。電話についても要望がある時は、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの創作品を壁に飾り、利用者に季節感を感じて頂ける様にしている。毎日掃除を行い、清潔感があるようにしている。夏は窓を開け、自然の風を取り入れる様にしている。	季節の七夕をテーマにした、貼り絵、吹き流し、天の川、習字、塗り絵、写真が貼られてある。ホールの天窓は障子で強い光を遮り、適度な明るさである。廊下の突き当りにはソファが置かれて、一人になれる空間が作られてある。エアコンを利用し、過ごしやすい環境となっているが、朝晩は窓を開け自然の風を入れたり、寒いときはFFストーブを利用し快適に過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たい人達は食堂で過ごし、そうでない人達は玄関ホールで過ごす等思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごすことが出来る様に、本人が希望する展示物や置物を配置している。	居室には、ベッド、洗面台、クローゼット、小机、イスが用意されている。使い慣れた布団を持ち込み、写真や作品、人形、アルバム、テレビ等を置き、清潔で快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手摺を設置し、安全に過ごせるようにしている。トイレを「便所」と表記したり、居室の入り口に名札を貼って自立した生活が送れるよう工夫している。		